

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600014		
法人名	有限会社コミュニケーション		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	三好市井川町西井川375番地		
自己評価作成日	平成23年8月5日	評価結果市町村受理日	平成23年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成23年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に、癒しのある安心生活や地域との交流等を掲げて日々取り組んでいる。近隣の保育所の子ども達と七夕会を行ったり、地元の阿波踊り連と交流を行っている。また、農園では、利用者とともに野菜づくりや収穫を行っており、穏やかな表情で会話や作業を楽しんでいる。利用者と職員はともに喜びあい、利用者のあふれる笑顔が一番の自慢となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街に位置している。周囲には、畑や小川等の自然豊かな環境もある。利用者の笑顔を大切に支援している。生活のなかに音楽や体操を多く取り入れており、音楽を聞きながら食事をするなど、楽しく生活するうえで利用者一人ひとりの持てる力を引き出すよう取り組んでいる。また、地域の保育所の子どもたちと七夕まつりを楽しんでおり、阿波踊り連の来訪もある。事業所の菜園では、植え付け時期や収穫の際、近隣の方の協力を得ており、地域の事業所として交流を深めている。また、緊急時や災害時の避難場所として事業所を提供したり、地域の協力が得られる体制づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、申し送りや職員会議の際に理念について再確認を行い、より良い実践に繋げている。	事業所は、地域との繋がりや協力体制を大切に考えている。管理者や職員は、申し送りや職員会議の際、理念の再確認を行って実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に地域の方と挨拶をしたり、隣人から旬の野菜をいただいたりしている。また、近隣の保育所と交流をしている。	散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、事業所の菜園で野菜の栽培方法を教えてもらっている。災害等の緊急避難場所として事業所を提供しており、応援態勢も整備している。また、近隣の保育所やボランティアとの交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話での相談はあるが、地域の方への浸透は図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や行事等の報告を行っている。出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしている	運営推進会議の際、利用者の状況やサービス内容、各種事業、評価等への取り組み状況について報告したり、話しあったりしている。出された意見や要望は、運営推進会議や職員会議等で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。しかし、2か月に1回、運営推進会議を開催するには至っていない。	運営推進会議は、事業所が利用者や家族、地域住民等に対して地域密着型サービスとしての役割と責任を果たすための重要な機会であることから、2か月に1回、開催されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月次報告を担当窓口へ提出している。介護保険制度等の相談をしたり、助言をいただいている。	市担当者に月次報告を提出する際、現況を報告している。また、介護保険や事業所のあり方等について相談や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を全職員が正しく理解している。落ち着かない利用者に対しては見守り、居所の確認を重視し、日中は施錠していない。	身体拘束倫理規定を作成している。全職員が規程を正しく理解して日ごろのケアに取り組んでいる。利用者の自由な行動を支援しており、他の利用者の迷惑とならないよう職員が十分に配慮したうえで、ゆっくりと向きあう時間を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会など話し合いの場を設け、虐待を見逃ごすことがないように職員間での連携も重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を設け、不安や疑問が解消できるように説明し、理解してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を十分に聞き、繊細な事でも運営に反映できるよう努めている。	家族の来訪時等になるべく多く話しかけるよう努め、意見や要望を聞くようにしている。出された意見等は、運営推進会議や職員会議で話しあって運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りノートを通して意見や提案を出し話しあい、反映させている。代表者は職員の意見を重視してくれている。	毎日の申し送りノートや職員会議等で意見や提案を出しあって運営に反映している。毎日、代表者は事業所を訪れて利用者や職員に声をかけ、つねに話しやすい雰囲気づくりに留意したうえで、職員の意見を多く取り入れるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に事業所に来ており、職員の業務内容や悩みを把握している。また、健康にも十分留意し定期的に健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の資格習得に向けた取り組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流が持てるように代表者が話を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族が事業所見学をされるときには、本人にもできる限り一緒に来ていただき、家族の意向だけでなく本人のからの意思や意向を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談にこられた時に、本人の状況や今までのサービスの利用状況などをお聞きして、事業所ができることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられるよう必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろの生活のなかで、利用者に積極的に話しかけ、言葉の由来やことわざ、地域の習わしなどを利用者から学ぶようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、日ごろの状況を報告し、できる限り協力をお願いし、ともに利用者を支えられるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、知人や友人の面会・電話で会話をされることもある。また、家族と一緒に行きつけの理容室へ行く方もおられる。	利用者の友人や知人が来訪してくれたり、電話をかけてくれたりしている。馴染みの理・美容院を利用している方もいる。また、墓参りや法要、お盆の里帰りなどは、家族の協力を得たうえで馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで歌を唄ったりレクリエーションをしたりしてホールで過ごしていただける様に声かけを行い、孤立しないように配慮している。また、職員も会話に入ってコミュニケーションを図り、利用者同士が関わり合えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じるなどの援助を継続している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、全職員の共通認識事項として受け止め、支援している。	利用者一人ひとりとゆっくりと関わることができるよう工夫している。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得たり、日ごろの関わりのなかで言葉や表情等から把握したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、利用者や家族から十分に情報を収集するように努めている。入居後は、その都度本人や家族からこれまでの暮らしの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取、排泄、睡眠状態を記録し、利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思い・意向をお聞きし、全職員意見を出し合い利用者主体で現状に即した計画を作成している。	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の希望や意見を把握し、関係者間で話しあって介護計画書を作成している。利用者一人ひとりの介護計画書について話し合いを重ね、3か月に1回見直しを行っているが、家族や関係者の意見やモニタリングの記録が見受けられない。	介護計画書の様式や記入方法等を検討・工夫し、本人や家族、関係者の意見・要望等を記録されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録に日ごろの状況を記入し、ミーティングで共用してケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性を生かし、利用者や家族が希望することに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お盆には地元の阿波踊りの連が踊りを披露してくれるなど地域との協働による利用者の楽しみの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を重視し、入居前からのかかりつけ医の受診ができるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得て、定期的な通院や2週間ごとの往診など、利用者一人ひとりの希望に応じた受診体制を整備している。協力医療機関との連携による緊急時の往診体制を構築し、利用者が安心して暮らすことができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名が勤務しており、日ごろの健康管理や状態変化のに応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院にお見舞いに伺い関係者から情報収集を行うとともに、早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から、家族と話し合いの機会を設け、事業所でできることと出来ないことの説明を行っている。事業所による支援が困難な場合でも、家族や医療機関と話し合いを行い、受け入れ先が決まるまで支援を継続している。	入居時、事業所でできる最大のケアについて説明している。利用者の体調や状態変化に応じて、家族や医療機関と連携を図っている。受け入れ先が決まるまで継続して支援し、本人や家族の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員が認識している。応急手当の研修会は実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。また、災害時には近隣のの方からの協力がえられるように依頼している。	年2回、避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も実施している。災害時における地域住民への協力依頼を行ったり、事業所を避難場所として提供したりしており、地域との協力関係を築いている。また、早朝の地震を想定した地域の避難訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから自尊心を傷つけないような対応を行っている。また、知り得た情報はむやみに口外しないことや業務外で使用しないことを徹底している。	日ごろから、利用者一人ひとりの行動パターンを観察して把握し、さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけを行うよう心がけている。利用者と職員が馴れあいの関係にならないように職員同士で気づきを話しあって振り返り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者にも、利用者一人ひとりに応じた説明を行い、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、本人の要望に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人の望む理・美容室でカットや毛染めなどを行っている。また、定期的に美容師さんの来訪がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物を提供し、食事から季節を感じてもらえるようにしている。また、ひばり農園で採れた新鮮野菜を使って季節料理を作ったり、手作りのおやつでおやつを楽しんでもらっている。	利用者は、食事の後片づけやテーブル拭きなどの役割を担っている。事業所の菜園で利用者とともに収穫した旬の野菜を使った料理やおやつを提供しており、季節感のある食事が毎日の生活の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録している。栄養が不足している時はカロリージュースなどで補足している。こまめに水分摂取を実施、特に夏場は夜間も水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの状態に応じて声かけや介助を行い口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツの使用をせず利用者一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。夜間も声かけ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	日中、オムツは使用していない。利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、夜間は声かけなどによりトイレでの自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や生活運動に配慮し便秘予防に努めている。また、下剤を服用している方は看護職員が状況を把握し、主治医との連携を密にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴できるように、その日の体調や気分に応じた入浴の支援を行っている。また、リラックスして入浴できるように一人ずつ入浴している。	ユニットごとに入浴日を設定している。入浴を拒む方にも、日を変えたり、声かけを工夫したりして、最低でも週2回は入浴できるよう支援している。利用者の希望するときに入浴してもらっているが、なるべく多く利用者に関わることができるよう入浴時間は午前中と決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意向で昼間も自室で休む方もいるなるべくホールで活動してもらっているようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルにまとめ、必要な時にはすぐに確認ができるようにしている。また、主治医との連携も密にとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方が多いのでカラオケで楽しむ事が多い、また、利用者に掃除や裁縫、洗濯物たたみなどをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や日光浴をし季節を感じていただいている。春と秋にはバスに乗り遠足に出かけリフレッシュをはかっている。	天気の良い日には、散歩や菜園での収穫等、戸外で自然や近隣の方とのふれあいを楽しんでいる。家族の協力を得て、墓参りや馴染みの理・美容院、外泊、買い物等に出かけている。また、春や秋には、お弁当を持参して遠足に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意向や家族の了承のもと、少額の金銭を所持されている方もいる。ひごろは金銭を所持していない方も、外出の際には自分の財布からお金の支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話や手紙でのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた飾りつけや観葉植物を設置している。また、空調により、快適な温度を保って居心地よく安心して生活が送れるように配慮している。	居間には、観葉植物や季節の花を飾っている。畳の間や広い廊下に長椅子等を設置している。台所からは、料理の音や匂いがしてくる。利用者は、ゲームや歌、散歩等を楽しんでおり、居心地よく過ごすことのできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	前庭や廊下、サンルーフには、イスやテーブルを設置して、一人でゆっくりと過ごせる居場所を設けている。また、空調により快適な温度を保っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、本人や家族に使い慣れた物を持ち込んでもらえるように説明している。また、本人の状況にあわせて居室でリラックスできるように配慮している。	利用者一人ひとりの要望に応じて、ペットや布団等を使い分けている。利用者の個性豊かな調度品や使い慣れた家具等が持ち込まれており、一人ひとりが落ち着いて過ごすことのできる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の際には、声かけや付き添い介助を行い、安全に生活が送れるよう配慮している。建物内はバリアフリーになっていて、手すりも多く設置している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、申し送りや職員会議の際に理念について再確認を行い、より良い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時に地域の方と挨拶をしたり、隣人から旬の野菜をいただいたりしている。また、近隣の保育所と交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話での相談はあるが、地域の方への浸透は図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や行事等の報告を行っている。出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月次報告を担当窓口へ提出している。介護保険制度等の相談をしたり、助言をしていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を全職員が正しく理解している。落ち着かない利用者に対しては見守り、居所の確認を重視し、日中は施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会など話し合いの場を設け、虐待を見過ごすことがないように職員間での連携も重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な機会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設け、不安や疑問が解消できるように説明し、理解してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を十分に聞き、些細な事でも運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りノートを通して意見や提案を出し話しあい、反映させている。代表者は職員の意見を重視してくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に事業所に来ており、職員の業務内容や悩みを把握している。また、健康にも十分留意し定期的に健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の資格習得に向けた取り組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流がもてるように代表者が話を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族が事業所見学をされる際には、本人にもできる限り一緒に来ていただき、家族の意向だけでなく本人のからの意思や意向を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来られた時に、本人の状況や今までのサービスの利用状況などをお聞きして、事業所ができることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとつて最も適したサービスが受けられるよう、必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日ごろの生活のなかで、利用者に積極的に話しかけ、言葉の由来やことわざ、地域の習わしなどを利用者から学ぶようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、日ごろの状況を報告し、できる限り協力をお願いし、ともに利用者を支えられるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、知人や友人の面会・電話で会話をされることもある。また、家族と一緒に行きつけの理容室へ行く方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで歌を唄ったりレクリエーションをしたりしてホールで過ごしていただける様に声かけを行い、孤立しないように配慮している。また、職員も会話に入ってコミュニケーションを図り、利用者同士が関わり合えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じるなどの援助を継続している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、全職員の共通認識事項として受け止め、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、利用者や家族から十分に情報を収集するように努めている。入居後も、そのつど本人や家族からこれまでの暮らしの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取、排泄、睡眠状態を記録し、利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思い・意向をお聞きし、全職員で意見を出し合い利用者主体で現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録に日ごろの状況を記入し、ミーティングで共用しケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性を生かし、利用者や家族が希望することに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お盆には地元の阿波踊りの連が踊りを披露してくれるなど地域との協働による利用者の楽しみの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を重視し、入居前からのかかりつけ医の受診ができるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名が勤務しており、日ごろの健康管理や状態変化に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院にお見舞いに伺い関係者から情報収集を行うとともに、早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から、家族と話し合いの機会を設け、事業所にできることと出来ないことの説明を行っている。事業所による支援が困難な場合でも、家族や医療機関と話し合いを行い、受入先が決まるまで支援を継続している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員が認識している。応急手当の研修会は実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。また、災害時には近隣の方からの協力がえられるように依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから自尊心を傷つけないような対応を行っている。また、知り得た情報はむやみに口外しないことや業務外で使用しないことを徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者にも、利用者一人ひとりに応じた説明を行い、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、本人の要望に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人の望む理・美容院でカットや毛染めなどを行っている。また、定期的に美容師さんの来訪がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物を提供し、食事から季節感を感じてもらえるように努めている。また、ひばり農園で採れた新鮮野菜を使って季節料理を作ったり、手作りのおやつでおやつを楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録している、栄養が不足している時はカロリージュースなどで補足している。こまめに水分摂取を実施、特に夏場は夜間も水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの状態に応じて、声かけや介助を行い口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツの使用をせず利用者一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。夜間も声かけ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や生活運動に配慮し便秘予防に努めている。また、下剤を服用している方は看護職員が状況を把握し、主治医との連携を密にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴できるように、その日の体調や気分に応じた入浴の支援を行っている。また、リラックスして入浴できるように一人ずつ入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意向で昼間も自室で休む方もいるが、なるべくホールで活動してもらっているようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルにまとめ、必要な時にはすぐに確認ができるようにしている。また、主治医との連携も密にとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方が多いので、カラオケで楽しむことが多い。また、利用者掃除や裁縫、洗濯物たたみなどのをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や日光浴をし季節を感じていただいている。春と秋にはバスに乗り遠足に出かけリフレッシュをはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意向や家族の了承のもと、少額の金銭を所持されている方もいる。日ごろは金銭を所持していない方も、外出の際には自分の財布からお金の支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話や手紙でのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた飾りつけや観葉植物を設置している。また、空調により、快適な温度を保って居心地よく安心して生活が送れるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	前庭や廊下、サンルーフには、イスやテーブルを設置して、一人でゆっくりと過ごせる居場所を設けている。また、空調により快適な温度を保っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、本人や家族に使い慣れた物を持ち込んでもらえるように説明している。また、本人の状況にあわせて居室でリラックスできるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の際には、声かけや付き添い介助を行い、安全に生活が送れるよう配慮している。建物内はバリアフリーになっていて、手すりも多く設置している。		